

# 瀬戸内海の静かな環境を守る住民ネットワーク

## 結成6周年記念シンポジウム 基調講演

### 『変貌する岩国～いま考えておかねばならないこと～』

中国新聞編集委員 山本浩司

新聞記者というのは文章でみなさんにいろんなことをお伝えするのが職業なので、今日どれだけ皆さんにお話しできるか、不安な気持ちで一杯です。が、私が新聞記者として、編集委員として、日々考えていること、いま皆さんに言葉で伝えなければならないことを、できるだけわかりやすくお伝えできればいいなと思っています。

いま本田さんから話があったように、岩国基地は、私がいたころはまだ滑走路が沖合にできていない時で、当然のように空母艦載機の着艦訓練、NLPが岩国で行われていました。若い記者が増えて、当時の着艦訓練の激しさを知る記者は少なくなりました。貴重な経験でした。

その当時は一般の記者だったのですが、編集員になって、思いもよらない在日米軍の再編が持ち上がりました。その時点から、どんなスタンスで記事を書いたか、今日は直接言葉でみなさんにお伝えできればいいかなと思っています。

#### ■なぜ日本に米軍がいるのか

まず、なぜ日本にアメリカ軍がいるのか、という根本のところからお話ししたいと思います。

大きな地図をもってこなかったもので、iPadを用意しました。これはわれわれが生まれてこのかたずっと見てきた地図です。じゃアメリカ軍はこの日本をどう見ているのでしょうか。このように上下をひっくり返してみてください。まったく違ってみえますね。どんなふうに見えますか。ロシア、朝鮮半島、中国などの国々が、太平洋に出てこないようにする、防波堤ですよ。ウラジオストクに対する三沢基地、朝鮮半島にたいする岩国基地が、まさに恰好の位置に配置されていますよね。

話はそれですが、いま領土問題がありますよね。中国、韓国の人はずっとこの地図をみてきたのです。なんと日本は邪魔なんだろう。この国さえなければ、太平洋を自分たちのものにできるのに…。日本を占領するわけにはいかないから、ちょっとだけ彼らの領海をもらって、自分たちの領海を広げようじゃないか。もし皆さんが中国の人だったらこう考えますよね。こんな邪魔な国はない。岩国基地の問題とは違うんですが、こんな地図を見たら、彼らの思いの一端が感じ取れ

るような気がするのです。ぜひ自宅に帰られたら、地図をさかさまにして、アメリカやアジアの国が日本をどうみているのか、試してみてください。何かストーンと落ちるような気がします。

このアイデアは他人の受け売り。昔日本部長をやって、沖縄に対する「ゆすりたかり」発言をやめたケビン・メアさん、この方を取材したとき、アメリカの人からきいた、アメリカが日本を見ている本当の姿です。

## ■米軍には KC-130 岩国移転が好都合

いまご紹介にありましたように、岩国の直近の問題としては、KC-130 の、普天間からの移転。今年6月から9月まで、総数はいつのまにか増えて15機となりました。移転の名目は沖縄の負担軽減といわれていますし、岩国の市長も沖縄の負担軽減のため、受け入れるにはやむを得ないことだと言っています。しかし、私は、岩国への普天間基地の機能の移転が、本当に沖縄の負担軽減になるのかという疑問があります。

例えば、今普天間にいる KC-130 が遠く離れた岩国に引っ越してくるとするのは、米軍にとっては痛みを伴うもののように見えます。

私が取材したところ、KC-130 は空中給油機の機能と同時に、中に積んである燃料タンクをはずせば、ふつうの輸送機として使えます。この輸送機として使う目的は、「前線に人や物を投入するとき」という返事が、沖縄の海兵隊の司令部からありました。

ということは、輸送機としての機能を発揮するために欠かせないのは、敵のレーダーから身を隠すための、低空飛行です。

実はこの低空飛行は、沖縄ではできないのです。岩国のみなさんをご存知だと思いますが、何度も普天間の KC-130 が岩国で目撃されました。私も目撃しました。岩国でタッチアンドゴーをやっていたりします。しかしタッチアンドゴーのために岩国にきているのではないと思います。タッチアンドゴーは普天間でもできるからです。それでは、なぜ彼らが岩国に来ていたかという、どこかで沖縄ではできない低空飛行をするためではないかと思います。

つまり低空飛行訓練を考えると、普天間にいるより岩国のほうが彼らにとって都合がいいのじゃないかと思えてくるのです。さらに空中給油には、燃料を渡したり受け取ったり訓練をせねばならない。そうすると今は岩国の FA-18 ホーネットなどが普天間に行って、訓練をしていましたが、移転後は、岩国の近辺で、同じ基地にいるジェット機と空中給油機が、渡す側、受け取る側の訓練を頻繁にできるようになるわけです。こうしてみると、普天間の負担軽減というのは、単なる理屈であって、実は米軍には都合のいいことではないかと思えるのです。

日本政府は、沖縄のオスプレイの訓練の半分を本土でやると言っています。これも沖縄の負担軽減が名目です。今日も坂本さんから頂いた統合幕僚幹部からの

資料には、自衛隊と一緒に訓練をやりますよ、とありました。しかし、これは訓練の分散になるのでしょうか。訓練の拡大と見ていいのじゃないのでしょうか。

沖縄の訓練の半分を本土に移転するというのであれば、沖縄でしかできない訓練を本土へもってこることが本当の沖縄の負担を軽減することです。自衛隊との訓練にオスプレイを参加させたからといって、沖縄の負担軽減となっているのかな、という単純な疑問をいただくわけです。つまり沖縄の負担軽減という錦の御旗をかかげれば、どんなことでもできるようになるのではないかという恐れがあります。

## ■岩国は他地域住民への加害者

もひとつ、岩国の飛行機が他地域への負担を強いているのではないのでしょうか。例えば、実弾投下訓練などはこの近辺ではできませんから、沖縄へ行ってする。ということは岩国の飛行機が、普天間で離着陸する際の騒音は、普天間にお住まいの人たちに影響している。これは間違いなく、岩国が他地域の負担になっているということです。

いま岩国が、沖縄の負担軽減という名目でいろいろ負担を分担していますけれど、今後 KC130 や空母艦載機が来ると、受け入れる岩国が他地域、例えばオレンジルートの下に住んでいらっしゃる方々の騒音の加害者になってしまうことを忘れてはならないと思います。つまり安易にいろいろなものを受け入れることによって、結果的に日本全土の広い範囲の人たちへの加害者になるということです。後ほどそれぞれお住まいの地域の実情をお話しいただくので、私にとってもいい機会だと思います。

私は、岩国で記者をやっていたときは、完全に岩国レベルで、岩国で今日着艦訓練があったからうるさかった、今日はたくさん飛んだから音がすごかった、という記事を書いていました。いま編集委員として立っているスタンスは、必ず地域に軸足を置くことです、オスプレイ、空母艦載機の移転などを分析して、地域の人たちと自治体への注意喚起が、私の編集委員としてのモットーです。

私は、空母艦載機が移転してくると、騒音が必ず激しくなりますよ、騒音が激しくなったときに、こんなにうるさいのですよと言っても、国から「ではどれだけうるさくなったのか、証拠を出してくれ」と言われたときのために、自治体は今のうちに、空母艦載機のいないときの騒音を測定しておきましょうと主張してきました。そして今、幾つかの自治体が、独自の騒音測定器をつけるようになりました。みなさんと自治体にメッセージを送ってきたことが、少しずつ実を結んでいることはうれしく感じています。

それでは空中給油機の移転、空母艦載機について申し上げます。まずは直近の問題としてある、空中給油機の移転の問題ですが、空中給油機の騒音は、岩国市周辺ではそれほどではないかも知れません。岩国でやる訓練は離着陸と、パイロ

ットの基本訓練として必要なタッチアンドゴーなどだと思うからです。KC-130はプロペラ機ですから、移転が完了する9月以降の分析が必要ですが、騒音は少ないのではないかと思います。

ところが輸送機としての任務を考えると、低空飛行が必ずついてきます。でもこれは岩国では行われません。東北か、オレンジルートか、ブラウンルートを使うことは間違いなく、その騒音はかなり激しいものであろうと考えられます。つまり、岩国の負担は少ないけれど、他地域の負担がかなり大きくなる、ということはみなさん、どこかに心の隅に置いておいてください。

## ■移転しても厚木の騒音はなくなる

次に、すこし延びたのですが、こちらのほうが大きな問題を引き起こしそうなものが、空母艦載機の移転です。これも厚木基地周辺の騒音の軽減が目的です。私取材で、初めて大和市駅に着いたとたん、ものすごい騒音を耳にしました。岩国の比ではないです。何機も飛び立つのだらうと思ったら1機だけ飛び立つのです。なんでそんな大きな音がするかというと、まわりの山に反響するのです。これはたまらないなと思いました。さらに硫黄島の着艦訓練施設ができるまではNLPが厚木基地で行われていたということも忘れてはなりません。

それでは、2017年に厚木基地から岩国基地へ空母艦載機が移転すると、厚木基地は静かになるのかということ、実際は負担軽減にはならないのではないかと思います。艦載機の訓練の特殊性があるからです。アメリカ海軍が、空母艦載機を空母の近くである厚木から岩国に移転するという負担を受け入れてくれた背景にあるのが、岩国の近くにNLPの施設を作りますという日本政府の約束です。1000キロ以上も硫黄島と往復する間に飛行機が故障しても、着陸する施設がないような危険なことはしませんという約束をとりつけたがゆえに、アメリカ海軍は空母艦載機を厚木基地から岩国に移転することに同意したのです。

ところがみなさんご存じのように、NLPの恒久施設建設のめどはたっていません。そうするとどうなるか。私が聞いている限り、在日アメリカ軍は硫黄島で訓練を実施するという約束をしてくれているということです。これは防衛局のコメントです。

そうするとどういうことになるか。空母艦載機は、岩国から、厚木を経由して硫黄島に行きます。そして硫黄島でNLPを済ませて、夜遅くに厚木基地に帰ってくる。つまり厚木のみなさんが負担に感じていた騒音はそのまま残ることになります。

それからもう一つ、空母艦載機の着艦訓練は2段階にわかれている、一つはいまのNLP。もうひとつは空母を海上に移動して、空母での着艦訓練です。その着艦訓練は当然、昼と夜行われます。問題なのは夜の訓練です。

私は、2011年6月に空母に一泊して取材するチャンスがありました。このと

きは、NLP を終わって、空母での着艦訓練、CQ (Carrier Qualify) をしている時でした。私びっくりしたのは、訓練が終わったのが午前1時で、パイロットは疲れたから空母に泊まって、明日の朝帰るのだらうと思ったら、そのまま飛んで帰りました。この飛行機の騒音は深夜、厚木基地周辺の広い範囲で響いていたはずです。

じゃ厚木基地から空母艦載機が岩国に移転したらどうするのか。空母を岩国の近く、例えば高知の沖にもってくるのでしょうか。それとも岩国の飛行機が厚木へ飛んで行って、夜と昼、房総半島の沖にいる空母でCQをするのでしょうか。岩国から飛行機が行ったほうが簡単なような気がしますね。するとその騒音も結局、厚木に残るといことなんです。つまり、政府が言っていた厚木周辺の負担軽減というのは、普段の離着陸分だけになる。その騒音も厚木のみなさんにとっては大きな負担だったでしょうから、その部分は負担軽減になるでしょうが、一番つらい思いをする訓練が残ってしまうというのは、厚木の人たちにとっては約束違反です。

## ■KC-130 岩国移転で騒音は全国へ

空母艦載機が移転するために、いま岩国基地のなかではものすごい工事が行われています。艦載機移転が遅れているのは、防衛施設局ははっきり言いませんが、アメリカの要求がどんどんエスカレートしているのではないかと思います。

そろそろまとめに入りますけれど、岩国と岩国近辺にお住まいの方々は、岩国に離着陸する飛行機の騒音にさらされています。私も古い滑走路で、そうした騒音を経験しました。これから普天間の、沖縄の負担軽減という名目で、KC-130の移転が終わった瞬間から、騒音問題は岩国だけの問題ではなくなるのです。このことはみなさん、心の片隅に置いておいてください。9月に空中給油機が移転するまでに、いまからひとつでも多くの騒音測定器がみなさんのお住まいのところにできることを願わずにはられません。

新聞記事としてはまだまだ書いていきますけれど、切実な住民の不安と、将来への備えとして、みなさんがたが、静かな冷静な声で地元の自治体に騒音測定器設置の呼びかけを是非していただきたいと思います。実際の行動を起こせるのは、それぞれの地域にお住まいのみなさんだからです。

ご清聴ありがとうございました。